

オランダの 畑作農家リナスさんを訪ねて 変わらない家族農業 両親の背中を見つめる子供たち

取材・文／本誌編集長・昆 吉則

Rinusさんの農業経営

- ・畑作：35+50=85ha、草地40ha（借地）。標高 -1 m
- ・秋まき小麦：44ha、ビート：12ha、フレンチフライ用ポテト：10ha、種ポテト：7ha、スイートコーン：10ha、タマネギ：5ha
- ・小麦（44ha）の収量は9t / ha（900kg / 10a）
- ・スイートコーン（10ha）はha当り10,000kg×0.17ユーロ=1,700ユーロ（17万円）。1,700,000円 / 10ha
- ・馬鈴薯は4月播種で9・10月収穫。55,000kg×0.11ユーロ=6,050ユーロ（605,000円） / ha
- ・畜産：搾乳牛30、未經産牛：20、子牛：24、牡牛：2

リナスさんは、日本から訪ねた我々にバーベキューのサービスとともに自分の農業経営について詳細な解説してくれた。



反収900kgの小麦。穂の長さを見てもその収量の多さがわかる。元肥えは窒素だけ。後は追肥でコンサルタントに指示によっている。オランダではどこを見てもこんな麦が育っている。



ジャガイモの反収は5.5t/10a。種はカットイモだ。kg単価は0.17ユーロというから、1ユーロ100円として、1kg17円。10aで6万円程度。日本では安くても35円はするだろう。

オランダは畑作でも世界をリードしている。本誌の視察ツアーで訪ねたジールランド州の畑作農家リナスさんを紹介したい。FAO統計によれば、2010年小麦の平均反収は891kg/10aで世界一。ジャガイモも常に世界のトップ3だ。ビートやニンジンも世界ベスト5に入る。

干拓で拡大した国土は四分の一が水面下。リナスさんの畑も海拔マイナス1m。それでも、地下水位は1m程度に保たれる高度な灌漑（排水）技術。肥えた土とともに夏場の長い日照と冷涼な気温が麦やジャガイモの高収量をもたらす。さらに、オランダでは栽培技術だけでなく様々な民間の農業コンサルタントたちが農



コンバインは刈り幅4mのジョンディア。ジャガイモハーベスタとともに親戚と共有しており、ビートなどは播種や収穫もコントラクタに頼む。



オランダは圃場の均平度が高く、幅40mのブームスプレーヤーもある。



コントラクタに頼むビート収穫の翌日にプラウをかけ、二日目にレムケンのバーチカルハローにドリルを組み合わせて、40数haの小麦播種をこなす。



奥さんが週に二日開いているというデリカテッセンの店。両親の仕事を手伝う小学6年生の息子さんは、自分も農業をやりたいと話していた。

業のレベルを上げている。オランダでは70年代に官営の普及事業が廃止され、それが農業を発展させた。

干拓でできた農地。国中に張り巡らされた水路と農地整備。水路や圃場周りの草刈は受益者としての農家の責任であり、それを怠る農家には罰金が科せられる。農地や用水の保全管理にまで補助金が出る我が国と、なんと違うのだろうか。リナスさんの話を聞いて、なんて日本の農家は甘やかされているのだろう。そして日本農業の不幸とは、自らが補助金中毒になっていることを自覚していないことだと思った。

リナスさんの経営は、85haの畑地で麦、加工用ジャガイモと種ジャガイモ、ビート、タマネギ、スイートコーン等。昨年の麦収量は10a当たり900kg、加工用ジャガイモも5.5t。単価は日本と比べるとはるかに安い。穀物農業へのEUの補助金は出ているが、日本の補助金レベルと比べればその金額ははるかに少ない。さらに同家では、奥さんが中心になって我々のような非農家向けのバーベキューのサービスや週二日は農家版のデリカテッセンのコーナーを農場の中に作っている。

そして、そんな両親の背中を追う子供たちは、作業を手伝い、自分も農業をしたいと話していた。